



元知格
紙

遠
2.092



7
2032

中井
藏書

中井
藏書

さうがと小判友やまうー此とらういを梅るひ
くさらせ給ひきりやとふ七十日とすし
さうのちくよとらういれあるのよはは
給ふ判友ひさーとめされ日ハやうこくを
あさう城とらうー屋うくあーの山れさ
うらひのいもくさうらあ家乃はくりあう
うらんまらとらう城とらうい給とらう給人
取く我をひゆけあさうと入りたまえり
思ひきん急井うをひよとらう人まんあ
はうんてあひみけあはよのがまえゆん

う川あそびきたりーあおのてをたすひきこ
ちあつううとねんーそわうきやう倦りれ
清たうありうらよりおうもいあそこの三
そんと人れをあさうふうしうけたうれわ
うりふいせう乃あ記をまらふあまをてい
ありきれたそのあ後ううりいころもあ
まらひーあまはあそび大甲よまいのひめれ
花じーなううう乃あまさうう 休たさるい
乃あまあそびあまのいあまあそびあ記か
ひここのううーひあうのあまのひあにを城

あそめ縁をたーうのうとそああけ けい
くがろー乃きーの發けいあはきいとけ
あーそほそあのらのかろーれーあい川を
まらうそとあまよかり菊い夏あまてあまあ
ひけをわうせありひけのをなうふわうら
やうちあうあひあうとそ三川の橋をそけ
せうらーあよりうー地つとそりそーとけ
さあまー乃下あはうーあまああうけりあ
とうるんらさちまううあをあひとああ記れ
いとあそびあまうせーあうらううあうれうせ

あつとみまへし
なつうとみまへし
乃いよまのりらつし
まひつたりまへし
えはうすけまへし
きぬをなまへし
乃あをよまへし
うとみまへし
なまうとみまへし

のへてまへし
とみまへし
やまんとまへし
ふう路をまへし
うとみまへし
え六十ふまへし
くらまのこまへし
すまはまらりら
乃山休えらまへし

そのとほおひせをうけて我子の事をと思ひ
りててふ記し其の多なきなりけり
いぬりまはぬ大判者あのかよへ由下向れ
し一城甲の戦う子乃ほきのよこのよあ
あつていあへうし建す一由とましてうらる
らんとあふ乃のあよらりりりりりりりり
とらんとをせめけりて海さうるをきとあひ
まひせしふらる海乃もさういあきあああ
うあひあへん乃あまうらりりりりりりりり
とまよあへん六人しと清と候りありあふこの

まひの上下十三人由見えたるなりりか人をも
人まますやほい可やうきやうの可きやう
とそよろ川乃あうのそのあひよあまあ
あうかよふをうきしとあよああああ
かよとくうきよあまのあうるりか人をしよ
あまのせりらと建し一とまはらりりりりり
あうらら乃あひあまのせしてららららし
まんとあまのいよあまのせりりりりりりり
あう人乃ちしよこのあうららららららら
あしそあけりせ給ふらあららららららら

とよとをう事と思ふよまといひ思ひはな
らとをいひふられてうら路も あらう海
ととめあまのうらうといひ値あひしよとい
日乃ら運うむまよわされよ他あよまては
やとよめされさあうは屋といふあひさよ
らよま一るんけいさうくもくこのとさう
めく書とりそん一書あゆくおくうまうしと
あひひまこけ乃えをんひさほくうひあ
うとて乃あさうのあやせや一と織り一村毎
乃あまやうりも百あうのまあんとうけし海

りつ花音あていまいさうの羽ふふ屋とと
うううらまそんあやあ一れよあめすちあう
うくとらうのいあへんうあま一屋とととら
とこそあひなをいひて作へ ことさうわと
あひひまけととを移すまね月のあう一書よ
あまととをちうらう一書らんせられう人十屋
あまあよ乃ああくとほくせ路よるまか人と
う一人う一書ていませうりやあうはのま
うあこの由らうああうるまをりとりりふ
きりあううあう一あてきふくき川た

此乃理このとらりまてさうしほむいよま
世のいふも乃そのうらありてまのいせ
るまのいしほくくんとそ十三人れもよ
あうらとたす乃ていしあうせらるゝもの
くうのらせ給ひまのしせんやうふたう
あそまのせんやうをさるゝるゝししし
てうたういふうらほくまを給うさううらよ
りうせめさうりてあをせ給ひ人れおや
乃みと思ふみりなふありさるゝ事よも
あしうまううせ給ふ乃さう海りさうふ自

あうらうく給ひせ給ふもあうわ山依うらふ
そ給ふ酒とそあ井られけり酒をあうと
とあうし時あううじううたのくとひん
ひう清尚とめされしとあういし人れ
さあひいあうよそあういさうよりあうい
う給をなううくさう梅りほ大判者れ
あう清とそあうあうあうあうあうあう
しあうれさうあううあうあうあうあう
とあうい人あうあうあうあうあうあう
う遠國を望りしあうあうあうあうあう

兄弟乃そのまゝのほとととて作敷あるまじ
め一やありふあまよりあまへの清ともい國
城なるそそきいどあくそくへのみりそは建又
らういひまて子女のまゝいそ二なるひらん
事うう一あふほともてをさく一國一
とくまれ身ほともてさのあふる國一とく
まうて老神のちくまうのあらふまうやうを
見とてよあふうまきう後ういほちやうまう
ともまていふくこのよまふとくまう父母
城あくさあてせなふ一ほ供とて又なとく

うまきうあまてあ一やうよつきのよまて
まうちくまうとさくさあほ一あまらふ一
ほともて一あまらうく一人のや法佛念念生
まゆ一やう不念佛父母常念子不念父母と
さうれうりまうくの仏の念生を思ひ結ん
ともまゆまう佛をばとひ一うたうきと
り一きもあやま子と思くと子まおやと
まうまおまうほわうき者たまてゆがとふ
まういよかてまうううまう一まう一太刀よ
よままそのくまうまういそ依敷とのゆらん

しひてあまくと花の舞うるる兄弟とあ縁とて
さふおをやねそたりゆととりい名こそ
情少人あ一代名をまのいあり付うらん
そのさすれまういよまてをよもうせー
とをも清流するは命とまうううあう
さらめとのとももあけ花目うりくは名
とをわけくくとあやうりおあせとて
さふおはいあ海で着あふうらせ給ひうま
らふあひあきあつくこのまのたうう人
なまー花そのあまふうらりはひいなく

さう給ひーうあまははまのふひーやんあ
まはーこのふひーやあひーくとの給ひ
ーさひうあやはりらんさそちあうあうや
まうりきんー日二日とあまのあまうり
乃ゆうりーあ給ふうあまのあまー
さふおあひあ目せんーやうーありーとて
兄弟乃そのたふ毛さまはあうらひひさせ
さあこへのあせをりはうのああふうり思ふ
あり種あーさそよああはせんと思ふとて
あふ乃つさのふい小橋あこのあまこさう

くこのよとゆふとれをいふなりよとをひ
は師うとてかひ一の清のうもてしらの清く
まをせPさんとりよ ぬかうとてうあされて
あううま一やさうぬたふうぢく清とさうん
ぬた十物十百物百となりともほむるけきた
ぢりう一もらあせさうぬとてまたあわ三
十せじう一う海人一はまはらうことうて又
かまうううあふとてぢく一そくうその
を成とちうく一 ぬよあましくは清んさう
くもらあらうあひぬあぢりくこのよの

をよとらうく一人ぬとささけけてもな記を
とてしうなをくさうあまもくそううらに
まのうぢて あまらうらぬのあひ一は成海よ
たうりてあへさまんとらうとてうちうう
うまううぢく清とさうんぬたあまぢ度とを
思りぬりてくさうとあまんとく二もあう
ぬまのくをれまうとてあまに列立くじう
一のう海人うとてくさのよあ信れぬとれ
ううあはまうゆぢく清とさうんとてあま
百あまらううらうあまぬいぬはまはせはく

旨書乃てのへいしきかて書送ありおにを
うしあう下お郵り通物ううりきうんすそ
三戸をひそめくおとせ給 為塔れじ
一 庫一海つりそのおつせんをいよりあ
事なる事くしめしるなりりし事こ海
はそしうりきり年一号あきんつしやく元年
あろの三月下あおん日あさあきの庫一まは
りそ波と波りーと此源平のおつせんま
さふらうと見ゆるそ時やまゆー六人うつひ
あう二人いんといふ三人いそ波らんとい

あつはそこのあつーひい何ともおそり
お人のやうなりしとをいしとてしを懸置り
まうりあう人まをこりまやとおひひをひ
とあうーおまの乃をいふけなきしうりの
あつはつ下て源平のおつせんをいしと
みこりまをいふはりなりし事なるり
おき乃西丸あひしをいふりしりのお船一
そうさうめうひてなきしとていしとて三人
のりなりなり一人あうんとり一人はし
今一人いしお大さあうとお船一き人れし

あふぞうあされきん大らりのそんいふく
とをうおしく卯のまゝおしりのよりひどあ
あーうらうらうらうらうらうらうらうらうら
てんてんてんてんてんてんてんてんてんてん
乃又人よりまんなるあかりよここ入は美え
りりな門おく熱門のさださくあひはさうめ
うひてをささくくちうく城あうはあふまり
おは門立あつぬく大書あけてそ名宗られう
うーうまあへきとよまもたひてううはあ
とひうあうまのと思ふらん一かん武教うう

りう乃親王小九代のごうめんうとまはれ
男終せううこのりはひそうきんれる記さへ
なこおとひくおうふとりくとまのい東武
大物小きんうんせに東國の大物よん系とそ
名宗られきんるるなり城志門あまう
一まのり城志門らおや又きん一此附より
え大物とお母一きん乃まてむておさせ給ふ
まいあけ何さうあされきんあうら此あま
乃ひうまひおしりのよりひおる一毛れそそ
み救うまううらうらうらうらうらうらう

うらとぬらひよあえらん移んとうれう
乃との二尺せす乃ころ縁はりの清らうを
あーをさるふじちんてさけ二十回さいら
さりうのきさすころうーおくはけ三人より
乃其甲あきりつけ七きさうりよてまらくら
るうじまふさんおくおんれくうさうせぬ者
うらあふふさだくーうみくこのなるを
あーくとあゆませあひらくく歳あうは
あーあんとりくうさみはりくらのあふ
大書あけてそ名案られきり共今あくまこよ

よらえりくあうはらみの改らあうそめと思ふ
らん事もおろあやせいこころんはうう十代
源のうーはのそうまんれあきいへんに
なぬくむふとくうくうの終堂あくとやん
小きんさんせに終堂あうは花めつうあう
ん系とそ名案られきりのとあまのうーやね
まぐ大拍乃拍めくうりくうあうーあくては
るきう小共よてあひくうもあうさうーはら
うそまららしてよらあんとあはなをぬくはら
まのらんとあうーあきまらうー乃拍大拍のうま

へ〜へもねまひきんち〜〜も〜〜井よ
 日ど〜〜〜あ〜〜〜
 ひ〜〜ひ〜〜と〜〜と昔は〜
 ま〜〜と〜〜乃箱をあ〜〜せと〜
 き〜〜も〜〜小伝命あ〜〜と〜
 又源氏乃ちんも〜〜めの一〜
 あ〜毛乃ひまよの〜〜や一〜
 そ〜乃夫ねり〜〜す〜
 名業やう兵今ちん〜〜
 は〜の残い〜〜と思ふら〜
 小伝命乃伝目〜二人乃子あおの〜
 終てゑの大矢と〜〜と〜
 まんてゑんまのち〜
 と〜〜の〜
 あ〜う〜は〜の一〜
 う〜の〜
 ぽ〜の〜
 ず〜の〜
 てあ〜と〜
 むをあ〜は〜の〜

へ〜へもねまひきんち〜〜も〜〜井よ
 日ど〜〜〜あ〜〜〜
 ひ〜〜ひ〜〜と〜〜と昔は〜
 ま〜〜と〜〜乃箱をあ〜〜せと〜
 き〜〜も〜〜小伝命あ〜〜と〜
 又源氏乃ちんも〜〜めの一〜
 あ〜毛乃ひまよの〜〜や一〜
 そ〜乃夫ねり〜〜す〜
 名業やう兵今ちん〜〜
 は〜の残い〜〜と思ふら〜
 小伝命乃伝目〜二人乃子あおの〜
 終てゑの大矢と〜〜と〜
 まんてゑんまのち〜
 と〜〜の〜
 あ〜う〜は〜の一〜
 う〜の〜
 ぽ〜の〜
 ず〜の〜
 てあ〜と〜
 むをあ〜は〜の〜

て我をよきよきとていへばうせよと世にいふ
ひさしうりあふはらんとせむをばえききかたしく
あしひさしんやほきこのよきなと世あされ事
うらよふと乃きのみれをうき世にしてふふん
うらにゆるまわらりけりさうらふ終世なれ
よのし菊玉丸をふら海原のゆららひおん
きんさんにまらんとさうら下へとんて
おろくこのゆらうらうらよきもあふれ
くら平家おのくまうらうらあれちあうく
そく思ひ白人とらみ十思そくとていへばうと
うけらひよらうらうらうらとくいあしひさし
や業は丸うらうらうらうらとてあうら
ひさしはあうらうらうら大夏のよき
うけをあうらうらうらとてあうら
ひさしうらうらうらうらうらうらうら
乃けうやうあうせんとてあうらうら
のうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらうらうらうらうらうらうら

ら夫乃ちあふくそくは御一巻一巻のよるを
とんでせりさくはうりよむひとひはん
てめひ乃ちうりあひはつくりよむあけられ
きりあひひんちも菊丸のよまてん
ひやうまうさくはあねまうりはく者さき
とも大らうよめひのせうよあさうふ
あけはけられてあうるみらんうりさけ
はあふさくあくならきりきり幸りりそあ
とばあひひけきともきりよさうひうり
まけ平家よと郎将さんたりたり終せれう

のりはひひとと御一巻一巻のよるを
このよよとさくはうりよむひとひはん
うりさくとあひひあひひあひひあひひ
らうりさくとあひひあひひあひひあひひ
教壇こそくらりりりりりりりりりりりり
はひひひひひひひひひひひひひひひひひ
きりうりうりうりうりうりうりうりうり
とあひひひひひひひひひひひひひひひひ
とあひひひひひひひひひひひひひひひひ
とあひひひひひひひひひひひひひひひひ

おなごなごしじまともなげ海よおなごの
あなごしじまのほけくさめりひてなご
うせららくくちくちくならあうはごぬと訂
ふせくむさくさうらあぐしあひなご
あひらそをじまうしらよしあひなごし
百余騎うじまうまうしあひらとくけ
あひたり源氏二百余騎あひてれひらきう
えそしめんにはうせあふあひらうてう
さうひさほめさんく小村くりきり平家れ
らんひさうたごしあひらうすあひらく

あひらと訂くりたりあひらあひらと訂く
しあひらうしあひらと訂くあひらと訂く
てあひらうしあひらと訂く二百余騎あひら
あひらうしあひらと訂くしあひらと訂く
うけあひら平家のあひらと訂くあひら源氏
あひらと訂くと訂くあひらと訂くあひらと訂く
あひらと訂くあひらと訂くあひらと訂く
あひらと訂くあひらと訂くあひらと訂く
あひらと訂くあひらと訂くあひらと訂く
あひらと訂くあひらと訂くあひらと訂く
あひらと訂くあひらと訂くあひらと訂く
あひらと訂くあひらと訂くあひらと訂く

そまじりー一合我作らまうりきんさんになま
らんとこのむとられる記さるる月くらる
よまのひとさうらう乃毎まうらう今うくら
あり平家言乃らんひやうともあくーま
あーくせまとせと大一急減わけくそけ
ふげりるいけ乃らんひやうたのるんけい
くもとてさうとあけくと紙一巻りそと
よまるんきいー記りーあふくともまじり
あこーうら本とまをけらひあうたうーとわ
よんていさーあふうくまら大あくれ

ーうちんさーいーのさまいと厚を記して
ーあふうーくまらあくまらひまらーうて
乃らーまらあくーら長力のうーいーま
あふとらりのくてむあふのまらあうあくら
そのくまーはけあろはけらうーとらうな
ますり乃あまらとあくらとまらーいよまら
めうひてそまらまらまらよまらーすむ
はらのと三十六勝まらーとまらゆせ大勝
ふまとまらまらまらとまらちまら長力
まらうらうけあふまらこのけ入列うり

きり津彦坊ありさまいこころんくまのこ
くやさん 魚のけららんひやうとまのひ
よりもありーとまのひ七百余騎とあるー
とと二百騎よりりよ討たされおき入海さ
ふさつとひく きんー二百余騎を八十三騎
にうらなされうりうひさんふありとめく
ちんとり志門まりきねらわめれこくまそ
ありりーきり 判友ひさーとめさ建奥別れ
このふまのひさりーありそまーと海の建
るんきいぬく海へ城浦りうらあのをん

小奥別れ依敷あや海一守匠さのふいり
くふありそ大船ありーのありりーとつくぬ
ありあ建とたううふあさりうあひひさん
もこのふひうーやまうつまのふおむひ
わらとまのひさりーありせんありりそま
いありもまうふそまのひさりーとまなくり
うらありそけあぐまうりあり 大船れめーと
義とひさーと海建てまのひ海へよひと
まの判友ありんーとひさりーのふあふはさ
のふりきり海へあうわら忠信承とさんゆん

よそはそこのむらよおひぬらとたけひあつた
うけあひ乃むらせんうひまはるくしてその
むらもそんせはとPあふそまはうそま
らんらんまやうむえあはとふるまはる
あり又あつてそあつたむらまやうよ記
すししむらとくむらむらむらむら
のむらむらありむらむらむらむらむら
らんらんむらむらむらむらむらむら
はちむらむらむらむらむらむらむら
めのとむらむらむらむらむらむらむら

むらむらむらむらむらむらむらむら
目録り乃事るむらむらむらむらむら
なむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむら
場むらむらむらむらむらむらむら
来すむらむらむらむらむらむらむら
むらむらむらむらむらむらむらむら
次信やむらむらむらむらむらむら
きむらむらむらむらむらむらむら
乃むらむらむらむらむらむらむら

おひともうあまうあみくお物達て何れ
なりのりあくくへおねらふいあもまそ
まがわりきんむお利へらまの事かまはす
まふよふらなまをま ままちとりれま
らふ發はままどまふくお母らくあらわそ
まらまらりきりあくじさんや改信も大事
らまおひてありきんらなまここのまよ
まらこらあまらやおーりきんあふもあま
すしあけあひのあらりよ下人れおまら
らんじあうまあまあまらあらここのまら

一とまこいそららまことまらまのふたそ
まこくあまらま 忠信あまられうま
まふまらくまらまらり由ての大事り
まらまらあまあ何と改入はまつまのま
まら我身の変まはなまもいんすまらま
まらてりまきまらみこまらりあくまらり
まられくあまら大拍い由てまおひ給りわら
まらおしくいまらまらおらまらこのまら
まらん味あは月ら八十三騎ようらあまら
らひわまら由てまおひ給りはらまらまら

もたりの清らうやとく私身一めせほまの
うらあうやいまのれその後めくあ
まはらまの今せよの貴のわうふ時大物れ
ぬめううらひそま一はゆの事 うこの
あまうらうま一まふすまの業のまを麻り
戸をりそ紀とりよせ次信とうまのせまの
ま されまこのまあけまけまのま
のふそりまあけらなまのそなれあうう
ま後あむこちまの藤井まのま後河あゆ
うらとまけら人のうらあまあううま

うそ一まや佐敷をんまの
あまいおのりま信をうま
まうらまのあけまひまのま
ま目あのかとつておまり まやうひ
まのりま一ま判後ま一あまてち
うまけまらとまて西元まらうま
ままけま一けまくま判後西元ま
まのまのまのうらうをほひま
まのまのまの大事まらうま
あうそあひまくまは共今ま

あそぢらうらうら奥別へ人どら守る一りふ
くとおぢせけ違と毛由西事一をけ甲さ守
うらうおほつあつらりよてとうのうらよ
あようおぢり ーいちぬた古よあくあ
じまんやほまのふささあああうらうらじ
ーやと甲あうらうらちらほまおまらうら
あーぬひんるら次あうらとてものー海城
さうらうらあうら あとあうらあうらあ
ほらなとーあうらのふまおひらうらうらと
ほけあやとねまひあうらうらうらうらあけ

あうらうらうらひなほまのふまおせいあは
だんまあうらうらひたうまうらうらぬぬ
うけまうらうらあは乃燃まてうらのうら
孫三郎おらうらあうらとておせまをあうら
てあうらうけ三日三晩をうらうらうらうら
を村おあせして今うまうらのほまうら
まうらうらうらうらうらうらうらうら
あうらうらあうらあうらうらのあをあうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
けうらうらうらうらうらうらうらうらうら

弓まいちぬ乃あけつめくまらこのよ
りりなりあともてあやうふ尸のなをくはあ
伝うてゆそや 何事もうりよとを取ゆ人
て尸させ給へとてさうをふうううり忠信も
ゆま乃りてまのあやうふあせだらさりを
ぬもーたり つまのゆあさるふと尸ささ
のふらん節うけゆさいくり登川北城りて
とり乃うその深三節うゆんはれゆまいと
射させうう乃矢と射ゆふせきりさふそ遊あ
か事乃ほあまはくそご目あをゆくまらり

ほくめ うけゆさふつまのふりおとあるま
まてあう孫とを結堂あの大矢い大あまてえ
うくまら兒ふううなうとと被され取信りて
あまはくそ今まてもうう入流ゆ人てそのを
せあの何事をもくみあひりりとうり
そとよ國へうう見城くさ守へささこれゆが
あまはらううてゆま守ちくさこれ二人あ
一人なううるさゆままのゆまのゆま
乃ゆまのゆまのゆまのゆまのゆまのゆま
乃ゆまのゆまのゆまのゆまのゆまのゆま

りつて別乃倭ゆくをら守の建にゆちまら
ら度一とせり一はの具別へくらり作敷む
ひくとをよかり十百余騎ふちやくさうけけ
よ海の時ひてむ入る大思こくらとて二正
乃馬とひさうしてを川くらるとりわーい
あのをよむもさけららんよのあつてひ
は建ともうあをされあふふのこくらと
くら付大らるとはあのひまは事一ひとむら
せーいそむゆさうりのせんらうよれそんて
音名城まらひら幸一ひまそのへをよーく

らーあまらーあされて所代とひらうせ給へ
とそあのまーいむうをーそんくむさなふ
うーあよまらわのりらうーあーれまや
まのゆらとまらなんのこくも也くれ名
あよそるさせいひとく名付 鎌倉との
りけはさすうまらうたとのこくはさか何
うーあせいひとそとてうらうーあ付
ひまあなうーまらうもく元年正月廿日
うら河とまらーあらうーま二月七日ふ一れ若
らうらうらと縁とむらー平家のくらひおりく

即ち大務と申し〜ぬんの由めより〜りたまはれ
判書よりあされ申す〜と記すをきり〜は昔事
乃じまあまけたとて〜けり〜も申しきん
まて大ま思ふぬまり ことまけりまのみな
乃由とていふあう〜記といつ〜と記す〜位よ
あされ〜めし〜と記すのたまはり〜を
たぬ〜まれなりとてたまらるめそあせられ
きり 来たる塚のるんあ〜あ〜じさんや記
伝るふ〜りあ〜り〜海切り〜〜と
あゆませよせあつたまは馬は也おくまてと

申す〜の由い〜けり〜らん〜のあつては
あ〜まげ馬を〜ま〜り〜君はま〜り〜記
け記あふけりまのら〜と〜り〜り〜記
ちりり〜もお〜あ〜〜と〜西軍〜り
とをそのあろり〜の〜〜〜らぬち〜れ
〜〜〜自余の〜〜〜と〜〜と〜りひ
〜〜〜事〜〜〜と〜〜と〜りひ
〜〜〜信ひ〜〜〜と〜〜と〜りひ
おんを〜て〜〜と〜〜と〜りひ
〜〜〜り〜〜〜義禮をたまらる〜り

らりのちのちんをわうせんとうとうけなくを
清とをたまらううつまふけさせ給ひ
次信うあうい乃まうり残りあこい
川まういー なる忠信 海にまうり せふ
やほまのよけせうてかまうくと思ひし
移てもほうーきんまうい乃そのま
あくあうよひんひてあうあうまうてほあふ
ひまうくならにまうり乃下乃ものあまはて
正しく信取給りりてあこい乃まうくのつよ
いとわまのこそなうりけき 信うりや大因

乃大そうくまうていあひげを切くとひりー
海記あうあんふあうくひあまうすとりや
ー血と志あーせんーをなせまうけ命を
後ふまうくうらーいのりいおん乃うあふ
所うり乃いふえそのあれあうさうく事ーを
いーいじまーあんでうのまひいあまうあひ
ふたままをむうまうりあまをさうり人いりま
くいさうまあういしとうんせぬ人いなるわ
きりあくも目乃あうせんふ源氏七騎ようり
あまれをさううくとあまうりまうりまとい

さうらよりんおとほります野の別あうん
さう一子余路乃せいのよてみるこいりまの
あきせん一乃ほせい一子余路ふなりうまひ
なうら平家と事ゆへあうらけこまゆ
乃終業しくゆへなくまゆこよし終ひまり
おとうとのこのよ昔野山道由成と一の
やまよて大まゆうらのあき終うりれま
ときその時このよ判友はうさとうせなう
減りゆり一人と終よとまう判友あくと
名業て昔野法師減まらうけさんくよ合終

一そあぐもういまはまここのあつて
さうさうてじま一さうさ人この夏あは
今せ乃さあめんいあひをさうね事さうり
念仏一うまはとてじま一のうまひより
つきのこのうらとこのよれあうみとら
あひひてあううたも減さてまうるあう
こいんとりあけうあふあてひひりあてまう
ていあうまうまあむあふさるんあてあ
判友ゆえしあき終業一あひのまてつひ
ついでとらあ一あひのまあうらあてあ

源丸より一信のと清名宗ありきまむかめら
あり子たり事一いさそなきわ三代さうおん
らさうとあうもPくそなけきのあられより
こひとよりあふ事一いあさりる一あさり
あさりてあふPてむらひあへはひを立ふ
きりむくひらよりあふてあふく一あさ
戸二男やとむらとふれと一と三子余誘れ勝
あくはひらひふまらりひらりも一とさP
しんを州ころうらとPとさうらよまんとさうらよ
清西と立極れさの清西とPてありいさうた

所らるあう梅そとらうらひさうせんよま
るくさうさう一さうPあひらりらら
あさりせんよと下さうらあはり入らさう
あさり



